

めざす子ども像 “ 気づく・学ぶ・考える子どもを育てる ”**取組目標 子どもにとって必要とされることを見出し、これを実践****【今年度の取組紹介】**

- ・「とみきた」と言えば「ひつじの学校」と言われ、ひつじの放牧が、地域に浸透しています。今年の「ひつじ歓迎会」は、雨の中多くの人たちが参加し、毛刈りなどの体験で生徒は楽しんでいました。子どもがひつじの世話を毎日行い、子ども及び地域の人たちとのコミュニケーションが熟成されています。広報面において、大きな力となっています。
- ・家庭で不要になったプラレールを家庭から寄付を受け、公民館と共催で「プラレール教室」を年間4回開催。
- ・「歌・ダンスクラブ」は学園前ホールとイオン登美ヶ丘でコンサートを開催。企業団体の支援により、開催。
- ・「ロボットクラブ」では、中学校のクラブ活動の支援として参加する事ができました。
- ・「わんわんパトロール」は今年も地域の見回り活動を毎日行いました。

**【今年度のまとめ】**

- ・コロナの影響もなくなり、これによって活動の大切さが再認識できた年度でした。
- ・学園前のイベントに歌・ダンスクラブが出演するなど地域や団体と連携する事ができました。
- ・「デザインスクール」を計画しましたが、実行できず残念でした。
- ・「ひつじの放牧」は、スタッフが大幅に入れ替わり、今後の体制が確立できました。
- ・「サマーセミナー」は、9講座を運営し盛況でした。
- ・全体的には、問題なくスムーズに活動出来ましたが、新規性が無かったのが残念でした。

【来年度に向けて】

- ・新規活動を行う事で、新たなコーディネーターの登録を目指したいです。
- ・やはり一番大切な人材の育成に重点を置きたいです。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

様々な活動を地域に発信する意識を持ち、できる限り子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

環境整備事業では、地域の方とグラウンドの土入れや草刈り、花を植えるなどを実施しました。地域の方と生徒たちが、共に汗をかき地域をきれいにするには、生徒たちにとって「自分の地域に貢献した」といった大きな充実感となりました。また、一緒に作業することにより、自然と会話が生まれ、地域の方と生徒の関係が深まったとともに、汗をかきながら地域のために作業する大人の方の姿を見て、ロールモデルとなり、目指すべき大人像を描けることができたのではないかと考えています。また、生徒たちが地域のイベントに参加し、イベントを盛り上げることに貢献したことについては、自分の地域は自分たちでよくしていくのだといった「当事者意識」を育成することができたのではないかと考えています。



【今年度のまとめ】

「地域の子どもたちの育成について」、地域の方と熟議を重ねました。教員の働き方改革を進めなければならない中、これ以上新しい取組を増やすわけにはいかないため、現状の取組の中で、生徒たちの育成を図るには、教員はどのような関わっていきけるのかについて熟議を深めました。その結果、地域の方に積極的に学校にきていただき、教員はコミュニケーションをはかるようにしました。特に効果的であったのが、地域の方に科学園芸部の指導を顧問に代わってやっていただいたことでもあります。大変レベルの高い指導をしていただき、生徒たちにも好評でした。また、部活の地域移行を進める中で、地域の方とのつながりができて、大きな一歩となりました。今後、他の部活動においても広げていきたいと考えています。

【来年度に向けて】

来年度は次の3点について重点的に取り組んでいきます。一点目は、教員と地域の方と「熟議・対話」を重ね取組を進めていきたいです。二点目は、生徒たちに「自分の地域は自分たちでよくしていきたい」といった当事者意識を育成する必要があります。子ども企画から運営までできるように育成しなければならないと考えています。三点目は、「地域と共にある学校」を進めていきたいです。地域の方に積極的に学校にきていただき、教員の様々な業務について支援をしていただきながら「地域の子どもたちの育成」に関わることができるシステムを構築していきたいです。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

《体験学習事業》

◆車椅子体験 等

社会福祉協議会からの協力を得て、4年生が車椅子の体験をしました。自走と介助、それぞれを体験しました。実際に体験してみると、目線や操作性、小さな段差や傾きへの気づきがありました。これらの気づきは、今後の自身の支援の仕方につながっていくと期待しています。



車椅子体験ワークシート

4年 組 番 名前

めあて「車椅子体験を通して、利用者の気持ちを考え、今後の行動につなげよう」

①事前学習

②果って（座って）みて感じたこと（どんなところが大変か？）

③介助して（押して）みて感じたこと（どんなところが大変か？）

--

《環境整備活動事業》

地域の方と共に行う環境整備

◆通学路清掃、図書整備

保護者の方や学校近隣の方と共に学校環境の整備を進めました。図書室は司書の方々の助言指導をいただきながら、より使いやすい図書室へと変わっていき、利用する児童の数も増え、環境整備の大切さを感じています。

【今年度のまとめ】

- 子どもたちはとても積極的に取り組み、貴重な学びを得る活動を実施することができました。これらの貴重な体験学習は、子どもたちの学びのスイッチを入れ、たくさんの気づきを生み出します。
- 地域の方と共に行う環境整備は、より良い学習活動を営む上で欠かせないものとなっています。子どもたちが安全に気持ちよく登下校し、共に学び合う学び舎を維持しています。

【来年度に向けて】

学年に応じた価値ある体験学習や行事を行えるよう、実施の時期や形態を考えていきます。今後も保護者や地域の方々と連携を深め、さらなる交流や繋がりをもつことにより、心豊かで自分が生活をするこの地域に誇りをもてる登美っ子の育成を目指していきたいと思います。

めざす子ども像

「気づく、学ぶ、考える、子どもを育てる」

取組目標

- 地域人材を生かした体験的学習の充実と読書活動の推進
- 恵まれた環境を生かした栽培活動や遊び・運動の推進

【今年度の取組紹介】

○放課後寺子屋「のびっこ」

小学校3年生の計算や漢字が苦手な子どもたちを対象に、木曜日の放課後に学習支援を行いました。地域の方や学生が先生役となり、簡単な計算ゲームやプリント、100マス計算などを行いました。

子どもたちは、楽しんで「のびっこ」に参加し、自分の成長を感じることができました。参加した地域の方も、子どもたちとの触れ合いに喜びを感じていました。



○読書活動の充実

今年度は、コロナ禍で中断していた朝の読書タイムを復活させ、読書活動に力を入れました。お話の会の方に来ていただく読み聞かせの機会も、学期ごとに設定しました。子どもたちは、身を乗り出したり、笑ったり、驚いたりなど、反応豊かに話を聞くことができました。

また、図書館整備も、北部図書館の司書の方、地域ボランティア、図書委員などが協力して行いました。



【今年度のまとめ】

今年度、新たに立ち上げた放課後寺子屋「のびっこ」では、子どもたちが「毎週来るのが楽しい。」「計算が早くなってうれしい。」など、生き生きと活動する姿が見られました。毎月行っていた100マス計算では、2分以上早くできるようになった子どももいて、自分の成長を大変喜んでいました。関わっていた地域の人たちからも、「子どもたちと関わると元気をもらう。来年度も続けたい。」という感想をいただきました。

また、今年度もESDの視点をもった授業づくりを行い、様々なゲストティーチャーに協力していただきました。その中では、ゲストティーチャーと共に授業を創っていく場面もありました。

【来年度に向けて】

学校の教育活動と地域、社会をつなげ、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、進めていきたいと思えます。そのためにも、様々なゲストティーチャーに専門家として来ていただき、子どもたちの豊かな学びにつなげたいと思えます。

また、どんなところで地域の力を活用できるのかを、地域と連携しながら探っていきたいです。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを大切にし、子ども実した取組を行う。

【今年度の取組紹介】

今年度は、感染症対策も緩和されたことで事業も計画通り実施することができました。今年度の新しい試みとして、子ども達の心も体も弾ませられる体験を取り入れようと考え、地域の方をゲストティーチャーとして招き、「バランスボールで弾もう」という事業を始めました。骨盤が前や後ろ、横に歪んでいると、骨盤パンツがシワシワになったり、話をしっかり聞けなかったりすぐに疲れて楽しく遊べなかったりするという話を聞き、椅子に座る時には姿勢を意識できるよう日頃の生活の中でも取り組んできました。参加する子ども達は「バランスボール楽しみ」「早く先生に会いたいな」と、心待ちにし、バランスボールで弾んだり、曲に合わせてボールを転がしたり踊ったりすることで、心も体も解き放され心地よい時間を過ごすことができました。



また、地域の方による「ふれあいコンサート」も開催させていただきました。地域の方の歌に合わせて一緒に歌ったり、体を揺らしながら歌を聞いたりして、楽しいひと時を一緒に過ごすことができました。日頃の園の生活や、子ども達の様子を見ていただく機会となりました。



【今年度のまとめ】

今年度は、新たな試みも含め地域の方が園に来てくださることが前年度より多くなりました。その中で、子ども達が地域の方の温かさに触れたり、地域の方にも子どもたちのことを知っていただいたりする良い機会につながったのではないかと思います。

環境整備事業では、保護者の方や地域の方のお力添えをいただき、子どもたちも四季折々の植物に触れたり、整った環境のもと存分に体を動かして遊んだりすることができました。

ふれあい感動体験事業では、「お話の会」や「英語教室」「サッカー教室」と、地域の方の教育力の元子どもたちの心も体も存分に楽しめる経験をすることができました。

【来年度に向けて】

- ・地域の教育力を生かした活動を保育内容に取り入れ、豊かな経験ができるようにし、活動内容に刺激を受け、やってみようとする意欲や思考力を育てていきたいです。
- ・取組内容をタイムリーに保護者や地域の方に写真を使って伝え、子どもの育ちや事業内容の理解につなげていきたいです。